MONTHLY MIKASA NEWS

ニュース

2026 年 1 月号

発行日： 2025 年 12 月 28 日
発行者： カトリック横須賀三笠教会
ＴＥＬ： 046-823-0042
ＦＡＸ： 046-823-1031
e-mail:mikasa-church@aqua.ocn.ne.jp

待降節黙想会(12 月 14 日)**「司祭の霊性」**

三笠教会 主任司祭　マリノ・デハクト

I. 福音を読むこと

聖ジェローニモによると、聖書を知らないことは、イエス様を知らないということです。ある人に従い、あるいは人を愛したいと望むならば、まず人を知らなければなりません。イエス様を知り、愛したければ、機会があるたびに聖書を読まなければなりません。キリスト信者にとって福音を読むことは、日常生活の一部です。おそらく、信者はそれを学ばなければならないと言ったほうがいいのですが、単に信者はそれを読まなければならないとだけ言うこともできます。つまり主に知的な訓練ではなく、祈りの行為です。福音を読む目的は、神を愛するための内的な衝動を得ること、神をより深く知ることです。幼子のように、私たちは従順な心で読み、その教えを受け入れる備えをすべきです。聖書が謙遜な心で読まれるならば、確かに、それは良い結果を与えるでしょう。

また聖書をよむことで、私たちはイエス様を一人の人間として知ることになります。イエス様が罪人、弟子たち、偽善者たちと交わる様子によって、イエス様の人間性の特徴を福音から学ぶことが出来ます。このような特徴も、キリスト信者にとって、宣教活動を行う上に非常に重要です。私たちは周りの人たちと交わる上でその主のように行動しなければなりません。イエス様の神聖な人間性は、私たちの信仰生活において、

非常に重要です。私たちがイエス様を模倣することが不可能ではないと理解することが出来るのは、この聖書を読む信心においてです。イエス様が弟子たちや友人たちの関係を取り扱う方法は、愛の実践の完璧な模範です。イエス様を模倣するために、毎日福音を読む信心を日常生活に入れるべきです。

II. 聖体への崇敬

イエス様は次のように述べています。「私が来たのは彼らが命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。」ヨハネ**10：10**。そして「私は命のパンである」ヨハネ**6：48**

誰も、養われることなく生き続けることは出来ません。確かに、聖体なしで私たちの信仰生活を支えて、新たにすることは不可能です。司祭、信者たちの信仰生活に関することでは、エウカリスチアは繰り返し、信仰生活の焦点として考えられています。それらは、私たちがその役務を達成するために必要とするあらゆる恩恵の源と考えられています。私たちはミサに与る際、主の現存を常に意識する必要があります。

私たちは確かにミサの偉大さと信仰生活に受けるその効果を理論的には理解しています。しかし、日常の忙しさと不安のため、それを忘れてしまう恐れがあります。このような問題を避けるために、私たちは秘跡を受ける時、いつも正しい態度を維持しなければなりません。イエス様は、「人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない。」ヨハネ６：５３と言われました。だから司祭たちは毎日それを受けているからこそ、エウカリスチアと最も密接な関係を持っていると言われています。でも教会は司祭だけではなく、皆さんも、可能であればご聖体をたびたび受けることを強く勧めています。

III. 祈り

祈りの最も単純な意味は、神に語りかけることです。それは、お互いの理解を深めようとする二人の友人の間の会話のようです。祈りなしには、人は神を友人として、あるいは、父として見ることは出来ないでしょう。キリスト者である私たちにとって、祈りは信仰生活の基礎です。祈らないということは、根のない植物のようなものです。愛が実践されるためには確かに行いを必要とします。しかし、日常業務のため、祈りを忘れることは許されません。私たちは一日を通して神様の存在を常に意識するために、毎日祈り、振り返る時間を見つけなければなりません。

理論的には、祈りは最も容易な行いです。神様は至る所に存在しておられます。ですから、私たちは一日中いかなる時でも神様に呼びかけることが出来ます。熱心に祈るためには深い神学的な知識を持つ必要はありません。重要なことは神様のほうへ心と精神を傾け、神様と共に過ごすことが出来ることです。また、祈りは私たちの望んでいることがかなうよう願うのではなく、私たちの思いが神様のみ旨と一致するように願うことです。イエス様が自分の使命を始めた時、非常に忙しかったことを思い起こしましょう。マルコ福音書では、主はこのように言っています。「さあ、あなたがただけで人里離れた所へ行って、しばらく休むがよいと言われた。出入りする人が多くて、食事をする暇もなかったからである。」マルコ6:31。福音によれば、イエス自身も祈るために人里離れた所へ退いたことが分かります。「しかし、イエスのうわさはますます広まったので大勢の群衆が教えを聞いたり、病気を癒していただいたりするために集ってきた。だがイエスは人里離れた所に退いて祈っておられた。」ルカ5:15－16。私たちは祈るための時間を作るべきです。頂いた使命が実を結ぶために祈りが必要ですから。

IV. 友情

キリスト者である私たちは他の人たちと同じように恐れ、喜び、安らぎ、不安などを感じます。誰であっても個人的な意見、望み、秘密でさえも話せる相手が必要です。しかし、信仰生活になると誰かに自分の悩んでいることを話すことが出来ません。このことは、神様だけが近づくことが出来る信仰者の生き方です。さもなければ、信仰者の最も基本的な特性や神との信仰の感覚を失う危険があります。信仰について悩んでいる信者を慰める人がいるならば、同じ信仰を持っている人たちの中からでなければなりません。司祭の場合は司祭団からです。第二バチカン公会議は、こう書かれています。「霊的および知的生活を深めるよう互いに助け合うため、また役務の上での協力がいっそう適切なものにするため、さらに孤独から起こりうる危険を避けるためなどの理由から、司祭たちの間に、ある種の共同生活または共有生活が奨励される」。まさに、友情はキリストと教会への忠実という司祭の霊的生活を支えることが出来るという意味です。友情が正しく理解されるということは、イエス様が教えてくださった愛を実践することなのです。「一度

背かれれば、兄弟は砦のようにいさかいをすれば、城のかんぬきのようになる。」箴言18：19。救いの歴史において、神様は人類を救うためにいつも人間を道具として使っています。これは、誰もが助けを必要としていることを意味します。つまり私たちは他の人たちから助けてもらうことが必要です。

V. 霊的読書

霊的読書の目的は、神様についてより深く理解するためです。もし私たちは誰かのことを良く知っているなら、彼を愛するのはそんなに難しくないです。また、神様についても同じです。神様を良く知っていれば知っているほど主を愛することが出来ます。

人間は知性を与えられているので、創造主を知るためにそれを使わなければなりません。この賜物は重要であり、人間を除いて知性を与えられた生き物はないからです。神様が人間に心を尽くして愛することを望んでいるのは当然です。イエス様がこう言いました。「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。」マタイ22：37。知性の根源は真理であり、イエス様自身です。イエス様についての思想はキリスト者である私たちにとって絶え間なく学ばなければならないものです。司祭たちは何年も神学を勉強しても、完全に神様のことを分かったというわけではありません。

霊的読書をする時、私たちはどんな態度でやっているのかによって実を結びます。私たちは読んでいる本の内容が心の中に入るように丁寧に読むことが大事です。私たちは読書を通して霊的な渇きを満たされますように望んでいるからです。また読書が実を結ぶために謙遜な態度が大事です。読書の目的は新しい思想を学ぶことだけではなく、信仰生活がより良くなるためなのです。このことは心に留めなければなりません。私たちは頂いた使命を全うするためにイエス様のように考え、行動するべきです。でもこれは自動的なものではないので、霊的読書によって必要な恵みが与えられます。

VI. 聖母マリアへの信心

聖母マリアへの信心は、私たちの信仰生活においてとても大切です。イエス様は、ご胎内にいた時、聖母マリアの優しい保護に頼りました。聖マリアは、息子に従っている人たちのことも良く分かっています。だから彼女は全てのキリスト者の母だと言われています。ヨハネの福音書ではイエス様が

十字架に付けられた時、息を引き取られる前にみ母に言いました。「婦人よ、御覧なさい。あなたの子です。それから弟子に言われた。見なさい。あなたの母です。」ヨハネ19:26－27。この言葉によって聖母マリアが私たちの母だと理解しています。私たちは聖母の子供たちであるならば彼女の模範から見習うことが当然です。マリア様の道徳、つまり謙遜、従順、貞潔な態度を模倣しなければなりません。そうなると私たちがこの高貴なみ母にふさわしい子供たちになります。またマリア様を通して私たちはイエス様のことをより良く知ることになります。母以上に息子のことを知っている者はいないからです。マリア様のお陰と取り次ぎによって主に従うことはたやすくなります。

ロザリオ、お告げの祈り以外にも聖母マリアへの信心がたくさんあります。もし私たちがこれらの祈りを日常生活に入れることができれば、彼女はいつも私たちのために取りなしてくださいます。カナの婚宴で起こった奇跡のように聖母の取り次ぎによって私たちが自分の弱さによる恥から救われます。

新しい歌をうたおう！

……三笠教会再生プロジェクトやろうよ！……

福音宣教部会
教会委員会

信者アンケートをやったら、日本人コミュニティの少子高齢化が極限に達していることがわかりました。国際化や財政・施設の課題を含め、危機的であると認めざるを得ません。みんなが生まれかわることをめざそうということになりました。みんなで「三笠教会再生プロジェクト」やりましょう。2026年が「三笠教会再生」の年になることを願っています。

わいわい楽しい三笠教会やろうよ！

12時過ぎになると人っ子ひとりいなくなる教会やめようよ。
楽しくなければイエスの食事会じゃないよ。
楽しい三笠教会の1か月の日曜日のイベント・サイクル始めようよ。
ミサだけで帰るんじゃなくて、コミュニティ活動やってみようよ。

みんなもういちど生まれかわろうよ！

若い世代がほとんど欠けている教会やめようよ。
あなたが今ここにいてほしいんだよ。
若者から高齢者まで全世代のコミュニティを再生しようよ。
みんな生まれかわってなんとか世代交代やってみようよ。

出かける教会、市民とともに歩む教会になろうよ！

2026年の横須賀の街にまったくプレゼントしていない教会やめようよ。
ガリラヤに参加していなければイエスの教会じゃないよ。
市民活動から体験的に学ぶしくみつくろうよ。

みんなで市民活動になんとか参加してみようよ。

（名生尚雄）

12月教会委員会報告

Ｉ．協議・検討事項

（1）三笠教会の課題の検討と対処方針

前月の委員会に提出された提案を基に検討する。以下、三笠ニュース掲載記事より抜粋。

三笠教会の課題の検討と対処方針について委員会にて『「三笠教会再生プロジェクト」をめざして』と題しまして以下の提案が提示されました。

【提案の概要】

信者アンケートの結果、日本人コミュニティの少子高齢化が極限に達していることが明らかになりました。一方、三笠教会全体としては国際化がいっそう進んでいますし、財政・施設の課題があることも確かです。

2026年へ向けてみんなが生まれかわることが求められています。いくつか課題が明らかになっています。

1. わいわい楽しい三笠教会やろうよ！

12時過ぎになると人っ子ひとりいなくなる教会やめようよ。

2. みんなもういちど生まれかわろうよ！

若い世代がほとんど欠けている教会やめようよ。

3. 出かける教会、市民とともに歩む教会になろうよ！

2025年の横須賀の街にプレゼントしていない教会やめようよ。

2026年に向けて、これらの課題に取り組めるチームを作って、

早速2026年1月からスタートを切りたいと考えます。

（2） 委員の交代について（2026年）

松谷、松島、竹内、中山

⇒・ノミネート委員3名程度を選出する

・ノミネート委員候補に依頼

・ノミネート委員会開催、

・ノミネート委員会の結果を教会委員会に報告（1月上旬）、

1月上旬から候補者（各役4名）に就任を依頼する。

（3）信徒報告会の開催時期について

2月22日（日）ミサ後に予定。

Ⅱ．報告事項

（1）マリノ神父様不在の予定と大水神父様よるミサのお知らせ

マリノ神父様が以下の期間に不在となります。よって、当該の期間におきましては、朝ミサはありません。

【不在の期間】

2月23日（月）～３月６日（金）

※３月１日（日）四旬節第2主日のミサは、大水恵一神父様（コベンツアル聖フランシスコ会）にお願いしてあります。

（2）堅信式

2026年12月6日（日）に司教様による堅信式が三笠教会で行われます。

堅信に向けての勉強会は9月頃より開始する予定です。

（3）1月11日（日）のミサについて

1月11日（日）のミサは、外国籍の方々と共に捧げるミサとなります。以前、三笠教会のミサに助祭として働いてくださったフン神父様とクン神父様が叙階後の初ミサを捧げて下さいます。

（4）寿町への支援（共同宣教司牧）

横浜第4地区「神の愛を伝える」部門の活動としての横浜寿町へのお米の支援と毛布の支援については、1月以降も引き続き協力をお願いする。

① お米　1合からでもかまわない、事務所前の空箱に入れて頂く。

② 毛布　事務所にて受け付ける。

Ⅲ. 典礼暦と行事・活動（1月以降の予定）

※日曜日以外の朝のミサは、以下の予定にて捧げられます（最終決定）。

〇月曜日、火曜日、木曜日、土曜日　　8時から

※ただし、第2週目の火曜日と、月によって異なりますが月の最終週の　火曜日（第４週または第５週）は、朝のミサはありません。

〇水曜日と金曜日　　9時15分から

※1月1日（木）～1月3日（土）の朝ミサは無し。1月5日（月）より朝ミサ開始。

1月　1日（木）神の母聖マリアのミサ（11：00～）
　4日（日）主の公現
　11日（日）主の洗礼　　教会委員会、典礼部会
　18日（日）年間第2主日　　教会学校、成人の日のお祝いと新年会
　25日（日）年間第3主日　　14：00英語ミサ
　28 日（水）祈りの会

2月　1日（日）年間第4主日　　教会委員会、典礼部会
　8日（日）年間第5主日
　15日（日）年間第6主日　　教会学校
　18日（水）灰の水曜日（四旬節）（大斎・小斎）　朝9時15分より
　22日（日）四旬節第1主日　　14：00英語ミサ

默想会に参加して

市来京子

待降節の黙想会のテーマは「司祭の霊性」についてでした。私たち信徒に向けての講話になるのですが、まずキリスト者としての六っつのミッションが示されました。イエスの人間性を理解するために福音を読むこと。主日、平日のミサに度々与かり、ご聖体を拝領して多くの恵みを受けること。神に心を向け、わたしたちの思いが神の思いと一致するよう祈ること。日々の信仰生活で出会う様々な体験を話せる友人と助け合うこと。霊的読書により、神をより深く理解すること。聖母マリアへの信心、マリアを模範として信仰生活を豊かにすること。このような信仰生活をおくる信徒の祈りにより、司祭は支えられているということ。

神父様の英語を交えながら、フィリピンの方々と一緒に聴きました。神父様の言葉はわかりやすく、心にストレートに入ってきました。7月から始まった「祈りの会」では信徒同士祈り、平日ミサへの参加も増やしたいと思います。自分の信仰生活を振り返り、信徒一人一人がマリノ神父様の霊性に倣い、小教区としてともに歩む者になって行ければ良いと思いました。

默想会に参加して

小野 治子

この日の講話者はマリノ神父さま。神父さまの分かり易いお話に、落ち着いて耳を傾けることができました。昔？！から常々外国人神父さま方が日本語で説教や講話をし、文章を書いておられることに尊敬の念を抱いてきました。その情熱の故にか、神父さま方の言葉がスーッと心に入ってくることも度々ありました。難しいとされる日本語学習や言葉の壁に苦労されたこともおありだったでしょうが、きっと神さまがそのたびに助けて下

さったのですね。外国語が瞬時に翻訳される時代になりましたが、たとえ「てにをは」が間違っていても対面の方が真意は伝わるような気がします。

さて、今日の「司祭の霊性」についてのお話。信仰生活を豊かにするために実践すべきことは、福音を読む、聖体への崇敬、祈り、友情、霊的読書、聖母マリアへの信心。教会法にある司祭の義務と一般信徒のそれとは異なる部分もあると話されましたが、これらの項目はキリスト者の生活に当てはまるものばかりで、自分の信徒としての **QOL（quality of life）** 信仰生活を見直す良い機会になりました。感謝です。

2025年度 第2回横浜教区一粒会第四地区委員会 議事録

開催日時 ： 2025年11月15日(土) 13:25～14:20
場　所 ： 逗子教会
出席者 ： 保久神父様、深堀、野沢、岩間、及川、栗原、山本、石渡、沖田、小西、松岡

議　題

① 本部委員会報告

・司教様は、カトリック神学院の常任委員は外れたが、まだ学務担当、知的養成担当はしている。教師の確保がとても難しい。財務関係も引き続き行っている。

・神学校の生徒数が減り、13名しかいない。長崎大司教区は0人。横浜教区は5名いる。ひとえに一粒会と青少年委員会の活動のおかげと思っている。
カトリック神学院への納入金は 3,000万円ちょっと出しているが、横浜教区はもっと出さないといけなくなるかもしれない。

② 一粒会大会報告

・会場は12年ぶりに強羅の函嶺白百合学園だった。電車が混むと思って早く出たのだが、スムーズに着いた。前回は歩くことに不安がなかったが、今回は駅から会場までの

坂が、膝が痛いためにつらく感じ、次に来るのは無理だと思った。学校の中も結構上ったり下ったりする所が多かったので、高齢者で足腰の悪い人にはつらいのではと感じた。体育館はとても広く、大勢の人でいっぱいだった。子供プログラムもあって大勢のお子さんが参加していて、大勢の神父様とのごミサにも一緒に参加し、前に出て歌ったりして、大人も子供も参加して良かったと思える一粒会だった。

・司教様のお話しがなかなか重い内容で、「今日から何ができるの？」と言われたのが心に残っていて、それから小さいお祈りをちょっとずつ続けている。

・校内を歩くのがなかなか厳しかった。お話はとても良かったし、わかりやすかったし、あまり時間も長くなかったので、ちょうど良かったと思った。「今でしょ！」という言葉が印象的だった。800名くらい参加者がいたので、久しぶりに違う県の人と会う事ができた。パイプ椅子だったのだが、なぜかお尻が痛くなかった。

・お昼ご飯を外でのんびり食べられたのが良かった。グラウンドや階段、室内でも食べる所があった。久しぶりにグラウンドで車座になって食べたのが良かった。

・第六地区の方からの簡単な報告があった。参加者は合計788名。司教様2人、司祭38名、一般参加者が 602名（子供50人を含む）、実行委員、協力委員が 117名、情報提供（手話、要約筆記）9名、学校生徒12名、教員8名。
献金額は 574,812円。経費は集計中。

・子供プログラムで絵本「神様のゆめ」を聞き、今の自分たちに出来ることや願い、祈りを、神様にあてて手紙を書き、それを函嶺白百合の学生さんがすぐ英訳して、その手紙を冊子にまとめ、それをバチカンに送りたいと担当の方が言っていて、すごく熱意を感じた。また「アーメンハレルヤ」の曲の手話も練習して、ミサの時、手話をしながら歌っていたのが印象的だった。

次回一粒会大会…2026年11月3日（火・祝）都筑教会聖堂（神奈川第二地区）

・都筑教会だと入れる人数が 400名くらい。司祭とスタッフで 100名。300名を 16小教区で割ると 20人。小教区7つだと 3人くらいになるだろう。

・大型バス、マイクロバスは駐車出来ない。乗用車のみ。いつも静岡、長野からバスで大勢来ているのだが、次回はそれが出来ない。

・講師は鈴木真神父様。絵本の読み聞かせなど子供向けの講義を考えているので、子供の参加をお願いしますという事だった。次回は12時半受付で終了が16時を予定している。

③ 10月19日(日)「召命の祈りとミサ」報告

・マリノ神父様がご自分のお話をされたのが良かった。フィリピンから、日本には来たくなかったけど来る事になり、何度も帰ろうと思ったとか、いいことも悪いこともいろいろあった、というお話をされた。難しいお話ではなく、わかりやすいお話だった。

・久しぶりにお説教の後に信者の皆さんが拍手をした。お説教の後の拍手なんて何年ぶりかなと思った。みんな引き込まれるように聞いていた。昔三浦海岸教会であった時も神父様がご自分の召命の話しをされた。多分小林神父様。その時も良かったと思った。

・きっと挫折したりするのを乗り越えて今がある、とんとん拍子に今の生活にいったわけではない、そういうのを感じて拍手がでたのではないか。小林神父様は結構つらい思いをしながらそれを乗り越えて神父になったという話しをされたと思う。マリノ神父様もこんな遠くの日本に来て、頑張っていらっしゃって、今があるということが、自然な拍手になったのかもしれない。

・次回の担当教会・・・金沢文庫教会。来年の秋ぐらい？ 決まったら連絡を。

・前回一般信徒の方にもPRしようということになったが、参加は結局一粒会の委員のみになってしまった。引き続き次回もPRしていって欲しい。

各小教区の活動報告

由比ガ浜・・・1円玉、5円玉献金箱が継続して聖堂入り口前に置かれている。小さい子供達が入れてくれているので、引き続き置いておこうと思っている。
来年委員改選なので、新しい人を見つけたい。でもなかなか難しい。
先週の本部委員会で、特別献金をしているという小教区があった。そのように募金箱を持って後ろに立つのも必要なのではと思った。小教区の

教会委員会の時に募金を実施して良いか聞こうと思う。宣教の日や召命の日など特別の日。そうすると日頃献金していない人でも献金してくれるかもしれない。

金沢 ・・・ 広報誌に年に1回か2回、一粒会の記事を載せている。委員をやってくださる方もなかなかいない。教会学校の生徒も少なくなっているが、それでも月2回活動しているのはすごいと思う。

雪ノ下・・・ あまり目立った活動はしていない。一粒会大会に出席。

三笠 ・・・「召命の祈りのミサ」のメールに皆さん返信してくださってすごく助かった。皆さんがどこにいらっしゃるのかわからなかったので、ご挨拶できなかった。

大津・・・ 主任司祭の岩間神父様不在が多くなりそうだということで、集会祭儀の勉強会を始めた。今まで実際に2回ほど集会祭儀があったが、そのときは神学生の方がいてくださって、その方にお任せした。しかしその方が忙しくなったので多分出来ないだろうということで、勉強会を始めた。

また月1回「見よこれはきわめてよかった」の読書会を始めた。今まで3回あったが、なかなか難しい。10名くらいの人が参加している。

逗子・・・会報誌に一粒会の事を書いた。一粒会には 6名参加。サビエル祭は昨年マイクロバスを出して参加したが、今年もする予定。

他地区の教会では、第3日曜日に一粒会献金の袋を配っているというところがあり、それぞれいろいろな活動をしているのだなと思った。月定でなくても、他のやり方を考えても良いのかな、と思った。

三浦海岸・・・ミサ献金箱の1円玉、5円玉は自動的に一粒会に回されるが、それだと1円、5円しか集まらないので、別に献金箱を作った。年に1, 2回「教会便り」に一粒会の記事を載せている。

本部委員会での他地区の活動報告を聞くと、活動の盛んな所は毎年講演会をしたり、神学生との交流をしたり、祈りのリレーをしている地区もある。

④ 事務局より

一粒会委員の改選がある。新委員の記入票は2026年1月13日までに本部に提出。

一粒会の献金は12月の初め頃に本部に送ること。

⑤ その他

・質問だが、「若手司祭の集まり」とは年齢が若い神父様なのか、それとも叙階の年が近い神父様なのか？⇒以前は叙階10年以内、または年齢40歳以内だったが、今は新司祭でも50歳を超えていたりするので、叙階10年以内としている。

・保久神父様より

神学校の経費だが、横浜教区は神学生の数が多いので負担が増える。いまの献金ではまかなえなくなってきている。

支出は学生1人あたり 1年250万円。普通の大学生に比べてそんなに高くはないと思う。

問題は神学生のいない教区は分担金を払っていないので、その分横浜教区の分担金が増えてくるということ。これからも献金をよろしくお願いします。

一粒会大会での献金は収入として大きい。今年の参加人数が約800人で献金額は50万円。来年の一粒会大会の参加人数は 400名となっているので、献金額は少なくなると予想される。400名でも子供、神父様と除くと 300名くらいになってしまう。

サレジオの学校を使っていいと言われているのだが。負担が多いので、簡素にしたいというのはわかる。

その他意見

予定では、第四地区は10年後(2034年くらい)に担当。

実現可能かどうかはわからないが、場所があれば、テントをたてて、地区ごとにグッズをだして売ってもいいかもしれない(チャリティーバザーのようなもの)。そしてその収益を献金してもらうのはどうだろうか。

⑥ 2026年地区委員会

第一回　5月

第二回　11月

（横浜教区一粒会第四地区委員会）

主の降誕（夜半のミサ） 12月24日